

Title	韓国におけるメソジスト教会の受容と成長(2)
Author(s)	高, 萬松
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-3 : 8-10
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2658
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

韓国におけるメソジスト教会の受容と成長 (2)

高 萬松

今回は、韓国プロテスタント教会史の草創期におけるメソジスト教会の受容を中心に考察した (Cf, Newsletter Vol.20, No. 2, 2010, p. 2-8)。ここではアメリカの北・南メソジスト教会が独自に宣教したという特徴が見られた。今回はその二つの連合体である「基督教朝鮮監理会 [メソジスト教会]」、すなわち、現代の「基督教大韓監理会」の母体の形成について考察したいと思う。(本稿は、メソジスト教団の企画によって発行された柳東植教授の著書を手がかりにしている。)

1 状況

1930年に「基督教朝鮮監理会」が形成される以前の状況を見てみよう。

① 教会の外の状況

当時クリスチャン指導者の一人趙炳玉博士が「朝鮮基督教史の前章は1910年に終わり、1910年からは後章が始まったと私は見ている」と言うように、1910年の「日韓併合」は韓国教会史における大きな変わり目であろう。9年後の1919年には「朝鮮独立運動」(三・一独立運動)が起き、その影響で日本帝国主義は以前の「武断統治」を捨て、「文化政策」を取った。一方では、民族主義者たちがその文化政策を利用して、韓国民衆の啓蒙や教育に力を入れた。他方では、社会主義思想と共産主義運動が韓国社会に広まった。彼らは民族の独立に先立って社会革命を通じた民衆の解放を主張したが、それに三・一運動で挫折を味わった大勢の青年たちが呼応したのである。特記すべきは、その社会主義と共産主義がついに反キリスト教運動にまで発展し教会にとって脅威的存在となったため、教会の指導者たちは新しい教会の在り方を模索しようとした²。代表的なのは、趙炳玉である。彼は、当時長老教会とメソジスト教会の連合新聞である『基督申報』の「朝鮮基督教の当面の問題」と題する記事において、「韓国の基督教史はこれから開拓時代から発展的時代に入

り、社会背景と文化環境の変化した新しい状況に置かれている。したがって、教会はこの新しい状況の下で自ら調節する必要がある。基督教会が自らの組織と伝道方法を改善しなければ、教会の運命は、戦術の発達した20世紀で原始時代に使用した矢や戦術で敵に対抗した結果と同じになるであろう」³、と主張している。

② 教会内の状況

上記の「三・一運動」以降、メソジスト教会は1920年10月から組織を整えて伝道に力を入れた。しかし、教会は1925年までは成長を続けて来たが、それ以降は沈滞してしまった。北メソジスト教会の統計によれば、1919年に19,287人、1920年に18,589人、1921年には19,985人に、1924年に20,144人に成長したが、それ以降は減少している。つまり、1925年に19,480人、1926年に19,063人、1927年に17,522人、1928年に15,214人、1929年に14,118人、1930年に13,380人に減少してしまったのである。柳東植は減少の要因を以下の四つあげている⁴。第一に経済的困難があった。当時、韓国人は耕す土地を所有出来ず、満州やシベリアなどの開拓地に移住してしまつたので、メソジスト教会の自給政策は打撃を受け、牧師達の働きも順調ではなかった。第二に三・一運動の挫折によって大勢の青年達が教会に大きな期待を抱いて入つたが、しかし教会は彼らの要求に相応しいプログラムや教育政策を提示出来なかつたことである。第三に上述のように1925年以降社会主義の流れの余波によって教会の宣教が打撃を受けた。第四に1920年代後半に、メソジスト教会の有力な指導者であった2人の牧師が亡くなり、教会内部には混乱が生じた。

2 韓国メソジスト教会のアイデンティティ

1920年後半になると、韓国の教会の指導者がアメリカに呼ばれ、講演者として活躍し始めた。これは韓国キリスト教界に新鮮な衝撃を与えた。そ

れだけではなく、アメリカのメソジスト教会はこれまでとは違って韓国人に監督者の地位を与えた。これらによって韓国教会は希望を見出したのである。『基督申報』は言う。「朝鮮は古い朝鮮ではなく新しい朝鮮である。十数年前にはリバイバル式で雨後の筍のように基督教が世界を驚せたが、近年は沈滞しているような状態に見え、それは実は赤ちゃんを産む母の苦痛と沈黙である。今、朝鮮基督教は新しいものを産もうとし、殻を割って出ようとしている」⁵。その中には具体的方法が提示されている。一つは、今までは宣教を受ける立場であったが、これからは宣教する教会として働きたいということ。もう一つは民族と文明の相違を越えてこれからお互いに力を合わせて神の国の建設に尽力するということであった。そのような歴史的要請があったからこそ1930年12月の、「基督教朝鮮監理会」が形成されたのである。

新しい自治の教会として「基督教朝鮮監理会」は独自の信仰告白を宣言しているため、ここでその全文を紹介したい。「教理宣言」(Doctrinal Statement)と題する宣言文は次のようになってい。すなわち、「一、基督教の根本原理はさまざまな時代に多様な形式で教会の歴史的信条の中に表明され、ウェスレーの『宗教簡条』と『説教集』、そして『新約注釈書』の中で解釈されてきた。この福音的信仰はわれわれの遺産であり、また栄光に満ちた所有物である。二、われわれは、われわれ教会の会員としてわれわれと結束しようとする者達に教理的問答(Doctrinal test)を決して強要しない。われわれの主要な要求は、イエス・キリストへの忠誠と彼に従おうとする決心である。ウェスレーがメソジスト教会の総則(General Rule)において要求したようにわれわれの入会の条件は神学的であるより道徳的で霊的である。誰でも彼の品格と行為が真の敬虔に合致するならば、個々の信徒に対する十分な信仰の自由を是認する。三、同時に、われわれの中で最も確かに信じられている主要な教理を以下のように宣言する。われわれは万物の

創造主であり支配者であり人類の父であり、すべての善と美と愛と真理の根源となる唯一の神を信じる。われわれは神が肉に現れ、われわれの師となり模範となり贖い主となり世の救い主となるイエス・キリストを信じる。われわれは神がわれわれと共におられ、われわれの導き、慰め、力となる聖霊を信じる。われわれは愛と祈りの生活において、罪の赦しとすべての必要に応じる豊かな恵みを信じる。われわれは旧約と新約にある神の言葉が信仰と実践に十分な標準となると信じる。われわれは生ける主に従っているすべての人々が礼拝と奉仕のために交わる教会を信じる。われわれは人間社会における神の定め(divine rule)としての神の国を信じ、神の父性の下ですべての人が兄弟であると信じる。われわれは義の究極的勝利と永遠の命を信じる。アーメン。すべての人と思想と行動にとって命と自由と喜びと力となるこの福音を広げるために、われわれの教会は聖別されている」⁶。

韓国の長老教会は1912年に総会がアメリカの宣教師から独立したが1905年に印度長老教会が作成した信条を採用している(12信条と呼ばれる)。この意味において韓国長老教会のアイデンティティは弱いであろう。しかしメソジスト教会の場合はそれとは違って、アメリカから完全に独立し主体的信仰告白を宣言し、アイデンティティを明確にしている。言い換えれば「韓国のメソジスト教会」と呼んでよいであろう。そして彼らは自らの神学を「自由主義神学」と名づけた。柳によれば、それは「時代と地域に従って成長し変わって行く生命体としてのメソジスト教会の信仰と宣教を解明する神学」のことを意味する⁷。初代の総理師(General Superintendent)に梁柱三(1879-1950)が任命された。彼の「韓国メソジスト教会の未来」と題する*The Korean Mission Field*の記事にはこれからのビジョンが提示されている。彼はその教会の「霊的な力」(spiritual power)の養成に尽力するということと、韓国教会が国際的に協力してその中心に

立つというビジョンをも示している⁸。1885年にメソジスト教会が韓国に紹介されて45年後の1930年代に「朝鮮メソジスト教会」は181の教区、774の礼拝堂、22,056人の信徒、981箇所の教会学校、116人の宣教師、177人の韓国人牧師、207人の聖書婦人(Bible women)を持つ韓国で二番目に大きな教団として成長したのである⁹。

Korean Mission Field, Vol.26, 1931。
J.S.Ryang, "THE Future of the Korean Methodist Church", *The Korean Mission Field*, Vol.26, 1931。

(こう・まんそん 聖学院大学総合研究所助教)

- 1 『基督申報』(1925.12.30) [『기독신보』]。彼は当時、貞洞メソジスト教会の日曜学校の校長であった。
- 2 関庚培『教会と民族』延世大学校出版部、2007年、303頁 [민경배「교회와민족」연세대학교출판부]。
- 3 『基督申報』(1925.12.30)。
- 4 柳東植『韓国監理教会の歴史 I』基督教大韓監理会、1994年、471頁 [유동식「한국감리교회의역사 1」기독교대한감리회]。
- 5 『基督申報』(1929. 8.24)、「社説」。
- 6 "THE PROCLAMATION Regarding the Unification and Organization of The Korean Methodist Church", *The Korean Mission Field*, Vol.26, 1931, 3 (以下、KMFと略記)。
- 7 柳東植『韓国監理教会の歴史 I』kmc、1994年、521頁。
- 8 J.S.Ryang, "THE Future of the Korean Methodist Church", *KMF*, 7.
- 9 *Ibid.*,

参考文献

- 『基督申報』[기독신보, 1915年から1937年までのキリスト教新聞]。
- 柳東植『韓国監理教会の歴史 I』基督教大韓監理会、1994年 [유동식「한국감리교회의역사 1」기독교대한감리회]。
- 関庚培『教会と民族』延世大学校出版部、2007年 [민경배「교회와민족」연세대학교출판부]。
- 関庚培『韓国民族教会形成史論』延世大学校出版部、2008年 [민경배「한국민족교회형성사론」연세대학교출판부]。
- 関庚培『韓国基督教教会史』延世大学校出版部、2009年 [민경배「한국기독교회사」연세대학교출판부]。
- 韓国基督教歴史研究所『韓国キリスト教の受難と抵抗』新教出版社、1995年。
- "THE PROCLAMATION Regarding the Unification and Organization of The Korean Methodist Church", *The*